地域の活動拠点としてのコミュニティカフェの可能性

－地域活性化に焦点をあてた事例分析－

○　日本福祉大学　　倉持　香苗（5372）

キーワード：コミュニティカフェ、地域拠点、まちづくり

１．研 究 目 的

本研究の目的は、誰もが利用することができる場所の一形態としてのコミュニティカフェに注目し、地域の活動拠点としてのコミュニティカフェの可能性について検討することである。

２．研究の視点および方法

地域には多様かつ複雑なニーズが存在しているほか、制度の谷間にある問題や社会的孤立が課題になっている。こうした地域課題はもはや公的サービスのみでは対応しきれず、住民同士の支え合いが求められている。また、地域の連帯感が希薄化し地域社会が脆弱化していることから地域住民のつながりの再構築が求められており、そのために地域の活動拠点となる場所の設置が重視されている（厚生労働省 2008）。一方、地域には誰もが自由に利用することができる場所がある。こうした場所は多様な名称および形態で運営されている。とりわけコミュニティカフェは利用対象を限定していない場所が多いことから、そこで多様な人との交わりが生まれ、つながりが構築され、地域の活動拠点になることが期待される。そこで本研究ではコミュニティカフェ内部のみならず、地域（コミュニティカフェ外部）で人々が交わる場を設けている事例を取り上げ、コミュニティカフェが地域の活動拠点の一つになり得る可能性について検討する。

本研究は量的調査と質的調査から成る。具体的には、全国コミュニティカフェ調査を実施し、わが国におけるコミュニティカフェの運営実態（倉持 2014）を把握した上で参与観察を実施した。参与観察においては必要に応じて利用客、スタッフ、地域住民に対するインタビュー調査およびアンケート調査を実施した。また、定期的に地域で開催されるイベントに、日頃コミュニティカフェを利用していない地域住民が参加していることが明らかになったため、イベント開催時に参加者に対するインタビュー調査およびアンケート調査を実施し、コミュニティカフェがおこなっている地域活動が地域住民にどのように受け止められているかについて明らかにしようと試みた。本研究ではこれらの調査結果を参考に、コミュニティカフェの活動が地域活性化およびつながりの構築に結びついているかについて考察した。

３．倫理的配慮

本研究で取り上げる事例の運営者およびスタッフから、研究に対する理解と協力を得ている。また地域調査実施の際には町会長から承諾を得た。インタビュー調査の際には調査の趣旨と秘密保持に関する説明をおこない同意を得たとともに、インタビュー調査および

アンケート調査で収集したデータは個人が特定されることのないよう処理した。

４．研 究 結 果

日頃、当該コミュニティカフェを利用している利用客は、女性 90.9%、開設当初の 4 年前から利用している割合が 36.4%、訪れたきっかけとして「イベントや講座に参加した」が 36.4%で最も多かった。参与観察では、コミュニティカフェで高齢者と交わった経験から福祉に関心を持つようになったという若者や、利用客自身に何かがあった際に「最近来ないね」と気付いてもらえるという高齢者の声が聴かれた。

定期的に開催されるイベント参加者の属性は、男性 43.1%、女性 55.4%、65 歳以上 46.3%であった。イベントの参加理由としては「フリーマーケットで買い物が出来る」49.2%、「作りたての食べ物を買える」44.6%、「知り合いに会える」29.2%、「行けば誰かと会話できる」20.0%であった（複数回答）。実施主体であるコミュニティカフェの認知度と利用度については、「知っている」78.5%、「利用したことがある」58.0%であった。また、本イベントの特徴に関する自由記述では「アットホーム」「家の近くなので普段着で気軽に行ける」「一体感があるように感じる」「人と人とのつながりが濃い。新たなつながりができる」「売る・買うだけではないコミュニケーションが取れる」「地域が明るくなってきた」「商店街がさびれているためイベントが楽しみ」といった事項が挙げられた。

参与観察においても、地域に馴染むためにイベントに参加したという声や、子どもや住民との交流の様子がフィールドノーツに記録されている。さらに常連のイベント出店者は、利用客がただ買い物をして帰るのではなく、ちょっとした悩みや自身のことを話すなど、人に話を聴いてほしい高齢者が多いと認識していた。また住民に対するインタビューにおいては、地域住民のつながりが希薄化していること、災害が発生した場合の対応の困難さが認識されており、コミュニティカフェの活動を重視していることが確認された。

５．考 察

本研究では、日頃コミュニティカフェ（内部）を利用していない者が屋外（コミュニティカフェ外部）のイベントに参加し、他者と知り合っていることが明らかになった。また、イベントを通じて誰かと会話しているあるいは知り合いに会っていること、さらにイベント開催による地域の活性化が期待されていることが明らかになった。コミュニティカフェ内部におけるつながりの構築のみならず、屋外で開催される定期的なイベントを通じて新たな人間関係が構築されていたということから、コミュニティカフェが地域に目を向けて運営することの重要性が示されたといえる。とりわけ少子高齢化あるいは商店街の衰退などにより地域が希薄化している状況においては、地域の活動拠点の一つとしてコミュニティカフェに期待が寄せられるのではないか。今後は地域住民のみならず関係機関とどのようにネットワークを構築し、地域拠点として活動を展開するのかについて検討したい。

※本調査は 2012 年度科研費（研究課題番号 24730488 研究代表者：倉持香苗）の助成を受けて実施しており、本報告は研究成果の一部である。